

# 令和5年度福島県立図書館協議会次第

日時 令和5年8月31日（木）  
13時30分から  
場所 県立図書館 3階 第1研修室

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 議 事

### (1) 副会長の選出

### (2) 議事録署名人の選出

### (3) 報告事項

令和4年度の図書館利用実績について

資料1

### (4) 協議事項

「福島県立図書館アクションプラン(第4次)」に係る  
令和4年度実績について

資料2

### (5) その他

## 4 閉 会

令和5年度福島県立図書館協議会出席者名簿

	氏 名	所属団体等（主な役職名等）
協議会委員  ※五十音順	いじつ みちふみ 井 實 充 史	福島大学（人間発達文化学類教授）
	いわもと なつみ 岩 本 夏 海	公募
	かんの りゅういち 菅 野 隆 一	福島民友新聞社株式会社（論説委員会委員長）
	さとう みちよ 佐 藤 美千代	福島県公共図書館協会（新地町図書館管理係長兼司書）
	さんべい ちかこ 三 瓶 千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科教授）
	たかはし あきこ 高 橋 明 子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員）
	たかはし まさと 高 橋 正 人	公募
	なかむら みつゆき 中 村 充 幸	福島県高等学校長協会（県立福島北高等学校長）
	ほしの あき 星 野 亜 希	福島県中学校長会（郡山市立逢瀬中学校長）
	わたなべ いくお 渡 部 育 夫	株式会社福島民報社（編集局次長兼文化部長）
教育課 社会課	佐 藤 浩 幸	主幹兼副課長（総務担当）
	尾 形 勉	主任主査
	熊 田 愛 弓	主事
図 書 館	石 本 仁	館長
	佐 藤 尚 美	副館長
	古 川 純 子	企画管理部長
	鈴 木 史 穂	資料情報サービス部長
	渡 部 智	主任主査（総務担当）
	加 藤 麻依子	専門司書（企画協力担当）
	橋 本 栄理子	専門司書（一般資料チーム）
	梅 津 直 美	主任司書（地域資料チーム）
	田 中 信 乃	主任司書（児童資料チーム）
鈴 木 知 基	主任司書（逐次刊行資料チーム）	

令和4年度図書館利用実績（資料）

1. 入館者数の推移

(1) 開館日数

令和2年度から4年度にかけて、新型コロナウイルス感染症及び2度にわたる福島県沖地震の影響により、臨時休館を余儀なくされた。

図表1 開館日数

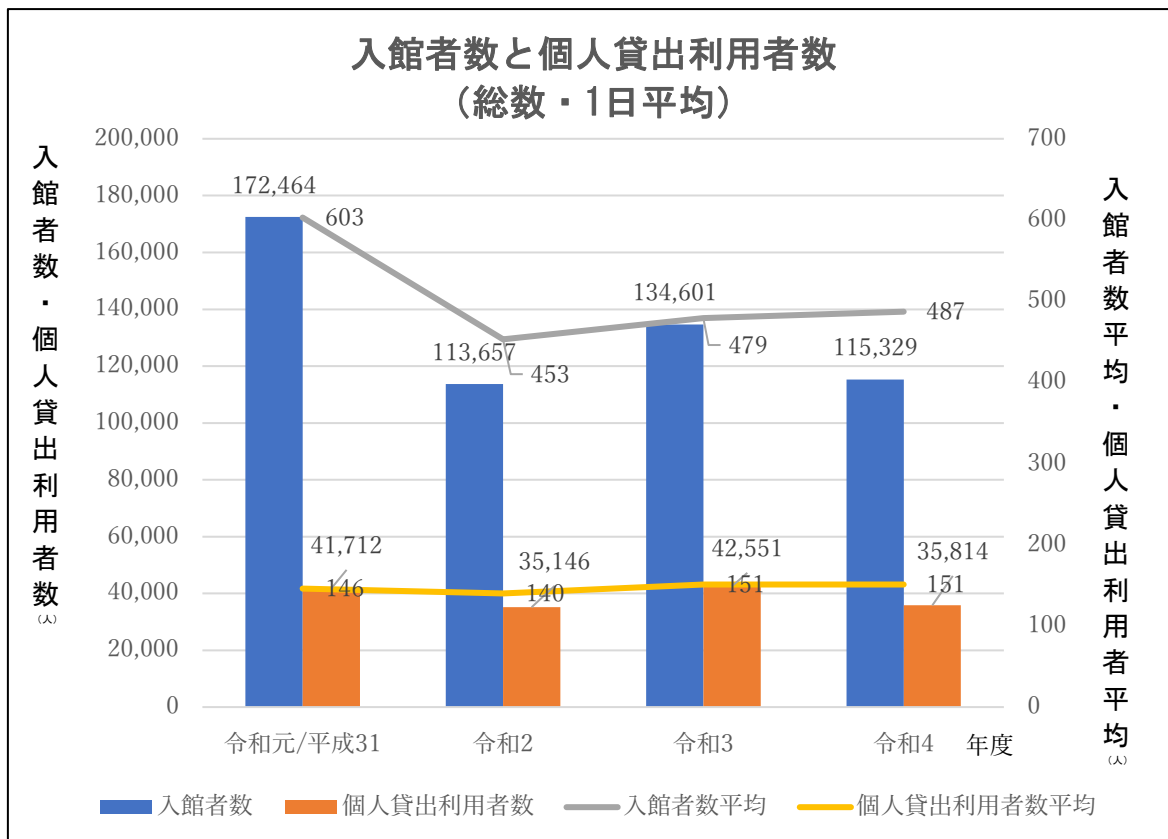
年度	開館日数	臨時休館
令和4	237日	5/9-7/7 災害復旧工事のための休館
令和3	281日	3/17-3/23 福島県沖地震（3/16）による休館
令和2	251日	4/19-5/15 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言による臨時休館 2/14-3/10 福島県沖地震（2/13）による休館
平成31/令和元	286日	

(2) 入館者数の推移

入館者数の1日平均は、令和2年度に150人減少（603人→453人）して以降、徐々に増加しているが、令和4年度において令和元年度の水準にまでは戻っておらず、令和元年度の8割程度に留まっている。

一方で、1日平均の個人貸出利用者数においては大きな変化はないことから、個人貸出利用の需要は安定的にあることが分かる。

図表2



## 2. 館外個人貸出利用状況

令和4年度個人貸出利用状況の構成比から、一般資料小計が55.0%、児童資料が45.0%、一般資料の中で最も貸出が多いのは文学で13.5%、次いで多いのは社会科学で7.5%である。

図表3 館外個人貸出冊数（資料宅配サービス、受取館指定サービスを含む）

※協力貸出・移動図書館貸出等、図書館への貸出は含まない

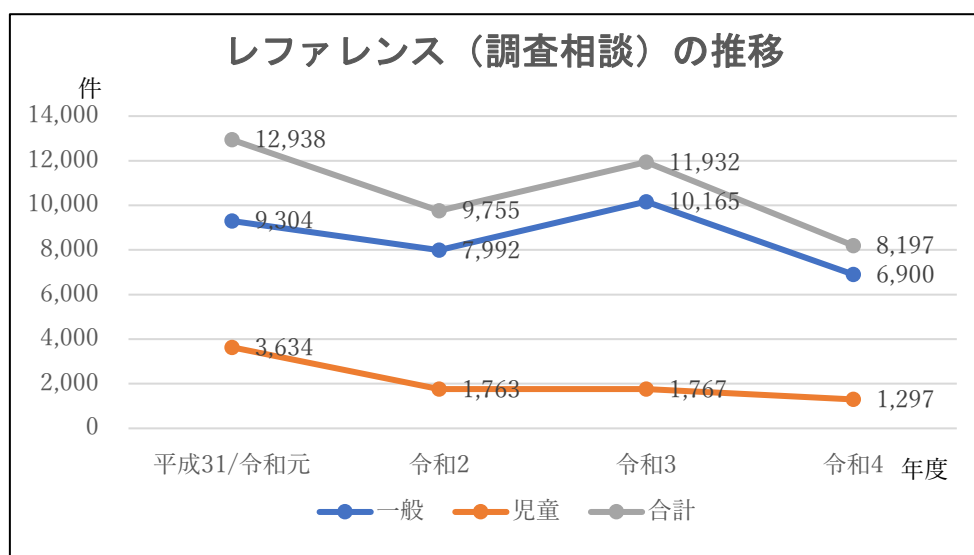
	平成31/令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	構成比(%)
総記	2,624	2,413	2,589	1,967	1.3
哲学・宗教	4,566	4,739	5,246	4,352	2.9
歴史・地理	8,057	7,364	7,170	5,857	4.0
社会科学	12,629	12,819	13,349	11,007	7.5
自然科学	7,925	7,996	8,392	6,688	4.5
工学・工業	7,941	6,563	8,195	6,723	4.6
産業	4,107	3,663	4,492	3,507	2.4
芸術	8,123	7,906	9,446	6,753	4.6
語学	1,362	1,204	1,436	1,471	1.0
文学	21,606	20,391	23,533	19,895	13.5
地域資料	7,568	6,885	7,967	6,325	4.3
雑誌	7,487	6,773	7,295	6,572	4.4
一般資料小計	93,995	88,716	99,110	81,117	55.0
児童資料	64,369	54,580	74,081	66,428	45.0
合計	158,364	143,296	173,191	147,545	100.0

## 3. レファレンス（調査相談）の推移

新型コロナウイルス感染症対策として、対面（口頭）での受付を休止し申込書による受付のみとしたことにより大幅に落ちこんだ令和2年度から、令和3年度は回復基調にあったが、令和4年度は再び減少に転じた。

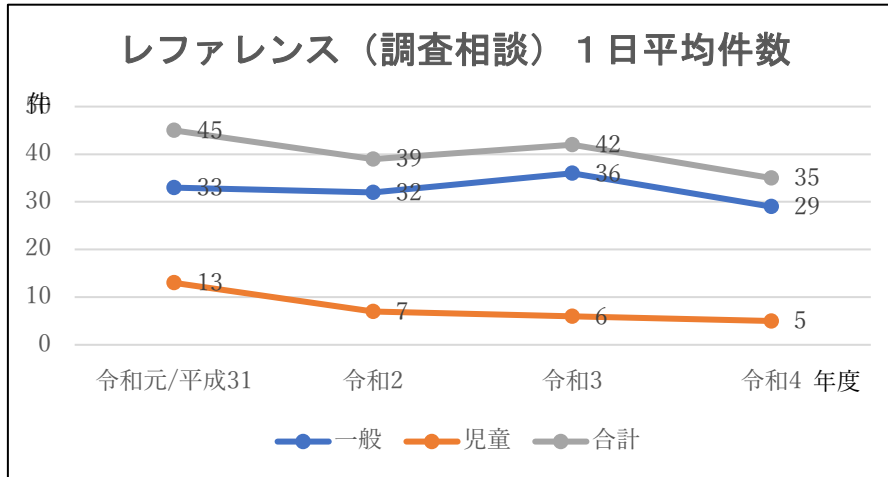
児童（こどものへや・児童図書研究室で受け付けたもの）のレファレンス件数は令和元年度と比べ、令和2年度以降半数以下に減少している。

図表4



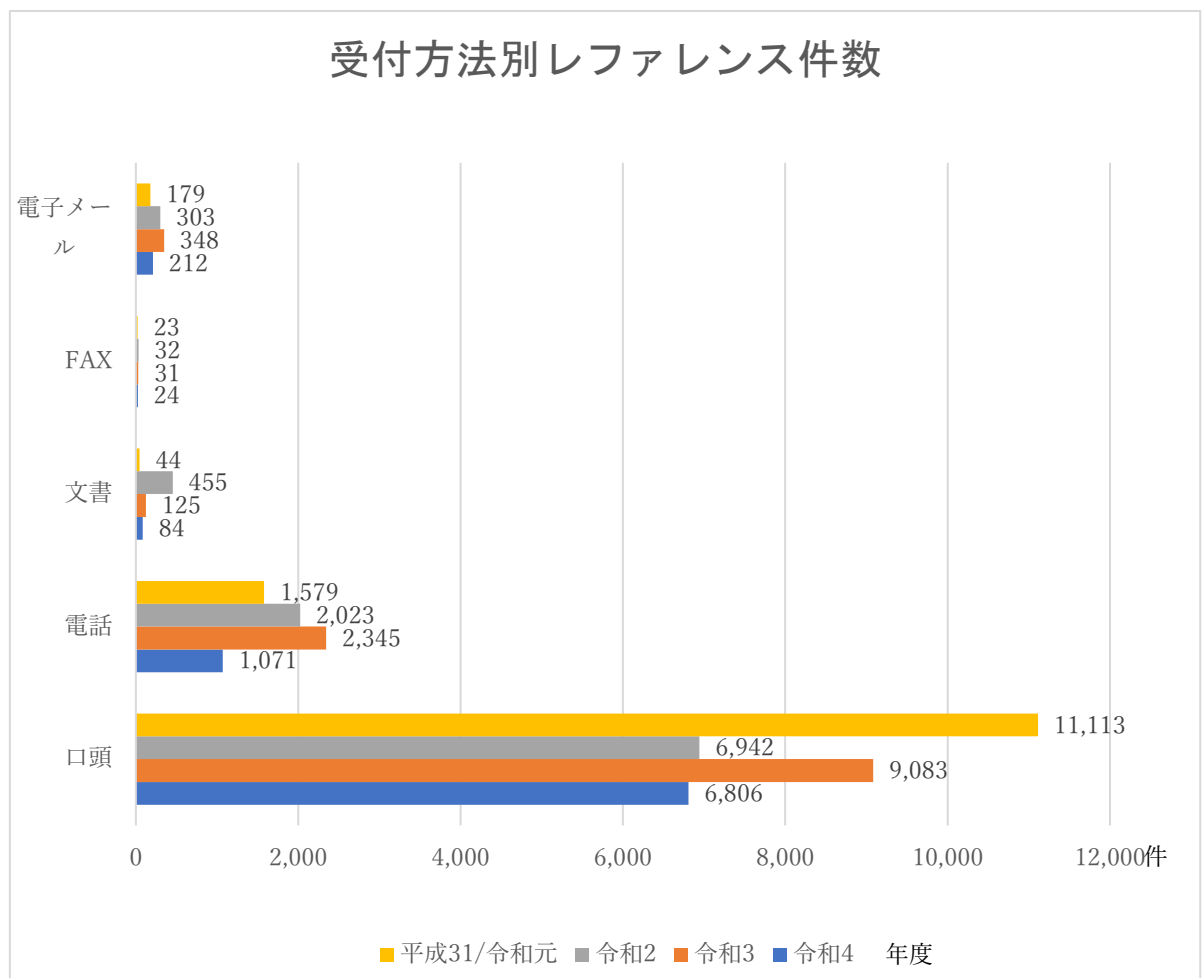
レファレンス 1 日平均は、一般はほぼ横ばいであるが、児童は令和元年度の半数以下に減少している。

図表 5



受付方法別レファレンス件数では、「口頭（来館）」が最も多く、次いで「電話」となっている。文書等（文書・FAX・電子メール）による間接的なレファレンスより、口頭や電話による直接司書と対話できるレファレンスが圧倒的に多い。

図表 6

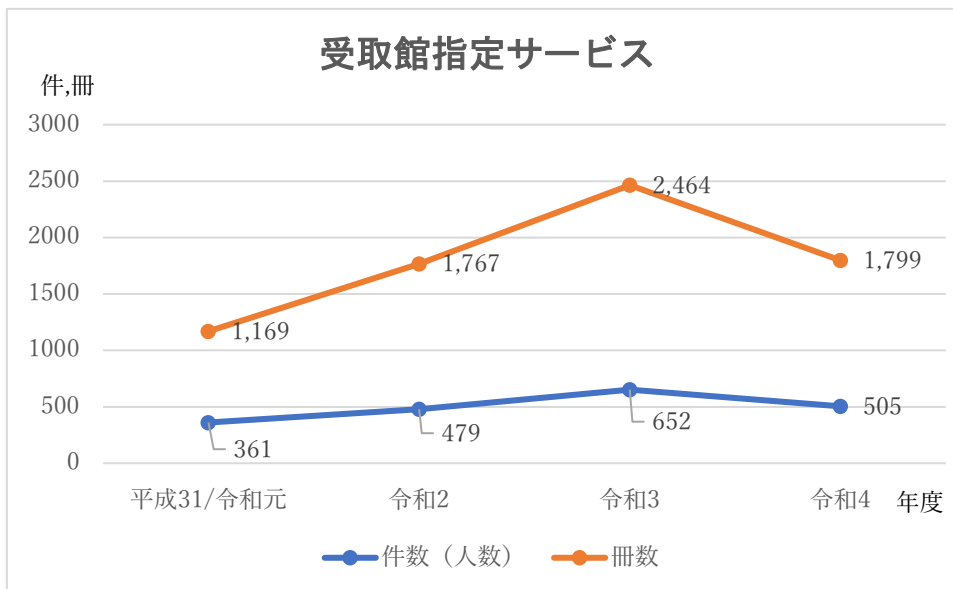


### 3. 非来館サービスの利用

#### (1) 受取館指定サービス

利用者がネットで貸出を申し込み、最寄りの市町村図書館を指定して受け取ることができるサービスであり、利用者が送料を負担せず県立図書館の本を借りることができる。平成29年度のサービス開始以降、件数は伸びてきているが、令和4年度は休館の影響もあり件数、冊数ともに減少した。

図表7



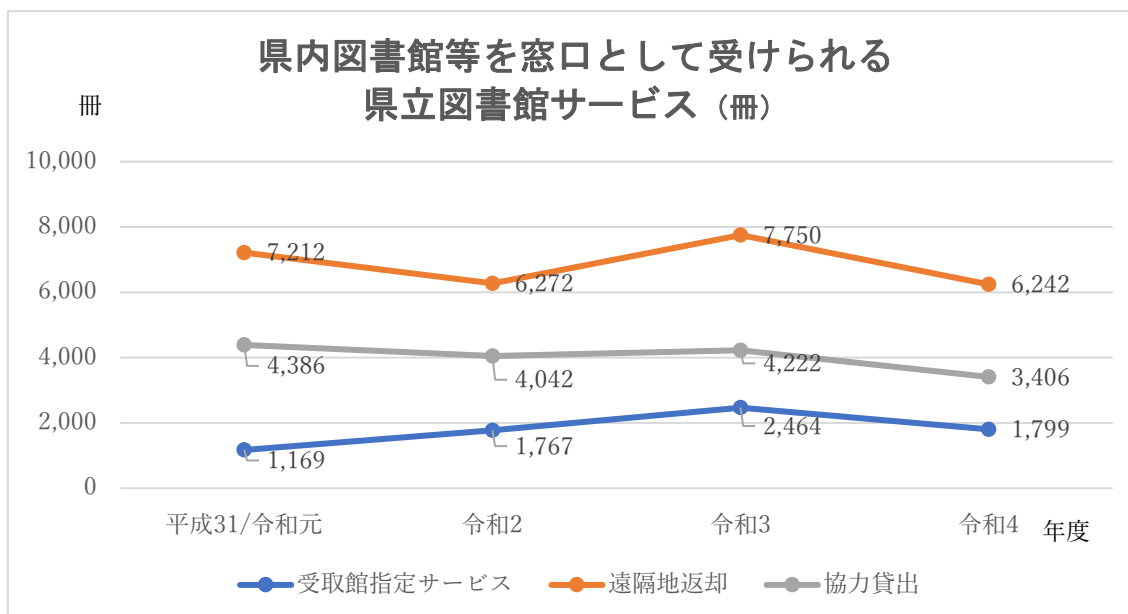
#### (2) 県内図書館への協力貸出

地元の図書館や公民館図書室等を介して、県立図書館の本を借りることができる。市町村図書館等の窓口で直接申し込むことができ、利用者は送料を負担せず借りることができる。

#### (3) 遠隔地返却

県立図書館で借りた本を地元の図書館と一部の公民館図書室等に返却できるサービスであり、県内図書館等を窓口として受けることができる非来館サービスの中で、最も利用が多い。

図表8



## 【 協議事項 】

## 「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」に係る令和4年度実績について

## I 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等しく利用できる図書館を目指します。

## (1) 令和4年度の主な取組み

## ○ 非来館サービス(受取館指定サービス、協力貸出等)の促進

県民がどこにいてもサービスを利用できるよう、非来館サービスの充実に取り組んだ。受取館指定サービスに参加していない市町村へ、各市町村の状況も考慮しながらサービスへの参加を促し、また、市町村がサービス開始(参加)に至るまでの体制づくりの相談に応じた。(令和4年度:新規参加1館(浪江町図書館))

## ○ レファレンスサービスの成果の活用

利用者が資料をより迅速かつ平易に資料を探すことができるよう、これまで蓄積されたレファレンスサービス成果の活用に取り組んだ。

- ・ NDL(国立国会図書館)レファレンス協同データベースへ、当館のレファレンス事例と回答について登録の上、一般公開し、類似事例について利用者から直接の検索を可能とした。(登録件数69件)
- ・ パスファインダー(資料の調べ案内)の新規作成や更新を行った。  
(一般資料:更新5件、地域資料:更新2件、逐次刊行資料:新規2件、児童資料:新規1件、更新1件、合計11件)

## ○ ホームページやSNSを活用した情報提供の充実

県立図書館として、県内全域へのサービス・情報提供を強化するため、ホームページやSNSを使用した情報提供に取り組んだ。

- ・ 図書館ホームページのトップページに、「遠方にお住いの県民の皆さまへ」として、受取館指定、資料宅配、遠隔地返却の案内等の非来館サービスを周知するためのバナーを設置した。
- ・ 当館所蔵の雑誌について探しやすくするため、ホームページの雑誌一覧より蔵書検索ページへのリンクを作成した。
- ・ ホームページのほか、福島県立図書館 Twitterにおいて、より情報を伝えるためのハッシュタグ増や、イベント情報についての積極的な広報を行った。(累計ツイート数828件、

累計フォロワー数 849 件)

- 障がい者や高齢者のための読書環境整備
  - ・ 障がい者や高齢者が利用しやすい大活字資料や LL ブックを積極的に収集し、大活字コーナーを図書館入り口近くに設置した。併せて大活字資料のリストを作成した。(令和4年度までの合計冊数・大活字本1870冊、LL ブック46冊)
  - ・ NDL 視覚障害者等用データ送信サービスへの登録を行った。
  - ・ 視覚障がい者向けのサービスについて、福島県点字図書館で使用している機材について同図書館職員から説明を受け、併せて情報交換を行った。
  - ・ 当館主催事業の「福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会」(11/11 開催・参加者14名)で福島県点字図書館の職員を講師とし「プレクストーク(デイジー再生機)」の使い方についての実習を行った。
  - ・ 特別支援学校への読書活動支援として、学校からの要望に応じて、移動図書館「あづま号」で訪問し、図書貸出を行った(石川支援学校、猪苗代支援学校、聴覚支援平学校、西郷支援学校、富岡支援学校 年間各2回)。猪苗代支援学校では、児童資料チーム職員によるおはなし会も開催した。
- 職員研修の充実
  - 職員資質向上のため、館内研修を企画・開催したほか、外部研修への積極的な参加を促した。
  - ・ 館内研修の実施(6回)
  - ・ オンライン開催の外部研修(北日本図書館大会・北日本図書館大会研究協議会・全国図書館大会群馬大会・全国公共図書館研究集会<サービス部門・経営部門>・著作権実務講習会・図書館地区別(北日本)研修)等への参加(計8人)。
- 施設の整備
  - 福島県沖地震からの復旧や既存劣化箇所について整備を行い、より良い施設整備に努めた。
  - ・ 災害復旧工事(建築・機械)を行うとともに、経年等による劣化箇所の修繕工事を行った。
  - ・ 誰でも使いやすい図書館とするため、駐車場にスロープを設置する等、適切な維持管理に努めた。
  - ・ 書庫の狭隘化対策として、電動書架設置に係る予算要求を行った。
- 電子書籍の導入に向けた検討
  - ・ 事業方針策定に向け、導入自治体の事例や各事業者のサービス内容等の調査・研究を行った。



(2) 関連指標実績

指標①「発行点数に占める購入冊数の割合」については、震災関連資料収集整備事業の縮小等に伴い資料費予算の減額となったことから減少している。

指標②「年間貸出総冊数」、指標③「年間レファレンス件数」及び指標⑤「受取館指定サービス貸出冊数」については、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を大きく受けた令和2年度から、令和3年度は回復傾向にあったが、令和4年度は地震からの復旧工事に伴い約2か月間休館した影響を受け、再び減少に転じている。

ただし、令和2年度との比較では指標②及び⑤はほぼ横ばいであり、開館日数を考慮すると(令和2年度:251日、令和4年度:237日)、令和4年度の実績は、実質、上向いていると言える。

一方、指標③については、実績として減少傾向にある。

指標④「ホームページ(蔵書検索)アクセス件数」は令和2年度比で15,000件以上の増加が見られた。

指標① 発行点数に占める購入冊数の割合

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
22.5%	18.7%	<u>15.7%</u>	⇒ 増加を目指す

指標② 年間貸出総冊数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
176,672冊	204,491冊	<u>176,128冊</u>	⇒ 205,000冊

指標③ 年間レファレンス件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
9,755件	11,932件	<u>8,197件</u>	⇒ 13,000件

指標④ ホームページ(蔵書検索)アクセス件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
832,584件	650,242件	<u>848,379件</u>	⇒ 900,000件

指標⑤ 受取館指定サービス貸出冊数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
1,767冊	2,464冊	<u>1,799冊</u>	⇒ 2,000冊

(3) 課題

- 資料費の継続的な確保につとめる。

- 受取館サービスや電話・メールによるレファレンスサービスなど、県立図書館の近くに居住していない方でも、県立図書館を便利に利用できるサービス（非来館サービス）について、県民への周知がまだ十分ではない。
- 障がい者サービスを受けるためには登録が必要であるが、その登録者数が伸び悩んでいる。
- 書庫の資料収納スペースが十分に確保されていない状況にある。
- 電子書籍サービスの導入に当たり、県立図書館としての役割を踏まえ、どのようなサービスを提供すべきか検討の途中であり、事業方針策定にまでは至っていない。

#### (4) 今後の取組み

- 受取館サービスの周知については、引き続きホームページにおいて紹介するとともに、市町村図書館に広報チラシの配架を依頼するなど、広報の強化を図っていく。また、受取館サービス未参加の市町村図書館に対して、取組への理解・協力を求め、引き続き参加を呼びかける。  
非来館でのレファレンスサービスについても、ホームページにおいて引き続き広報に努めるほか、利用につながるよう過去のレファレンス事例の紹介にも力を入れる。
- 障がい者が利用しやすい環境について引き続き情報収集し、整備や周知に努める。市町村立図書館や公民館図書室への「プレクストーク（デイジー再生機）」の貸出方法についても検討する。  
障がい者サービスの広報については、利用者本人が直接情報を収集することが困難であることから、障がい者関連団体などに向けて広報するなど、より効果的な手法を検討する。  
当館職員についても、引き続き研修を積極的に行い、資質向上に努める。
- 書庫の狭隘化対策としての電動書架化については、その一部について令和5年度において予算を獲得し、今年度中の設置に向けて準備を進めている。今後においても引き続き整備に努める。
- 電子書籍サービスについては、県立図書館として提供すべきサービス内容について引き続き検討を進めるとともに、導入目標年度を定め、予算確保を含め計画的に導入に向けた取組を進めていく。

## 2 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

(1) 令和4年度の主な取組み

○ 学校や家庭で活用できるホームページ情報の充実

図書館ホームページにおいて、学校・家庭での選書等に役立つ情報の充実を図った。

- ・ ホームページの資料紹介機能を活用した、絵本コーナーでのミニ展示資料の紹介を実施した。
- ・ ホームページの「ごろすけリンク集」の更新、「こどものへや所蔵紙芝居リスト」、「ビッグブックリスト」の更新。
- ・ ホームページの「子どもへの読書活動をしている方へ」に掲載している、「こどものへや所蔵紙芝居リスト」、「ビッグブックリスト」及び研究用資料セットのリスト(14件)の更新。

○ 学校図書館活動の支援

県内小・中学校の図書活動への支援として、「学校図書館サポートセット」の貸出を令和4年度より本格稼働し、その広報に努めた。

- ・ 県内各市町村立小・中学校へ学校図書館サポートセットの利用方法等を示したチラシデータを送付した。
- ・ 学校図書館向け学校図書館サポートセットの貸出の本格稼働(令和4年度実績(貸出件数及び冊数)18件・480冊)。

○ 知的好奇心に応えるための読書環境整備

- ・ テーマを設定したミニ展示を頻回に行い、様々な分野の図書に触れる機会を創出した。(合計33回実施)。
- ・ 子ども向けパスファインダー、「調べ方あんない NO.3 福島の人物」を発行した。

○ 子どもの発達段階に合わせた読書活動や図書館活用機会の提供

- ・ 0~3歳向けの「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜・定期開催)、「おはなしかい」(イベント等時に随時開催)、普段は見るできない書庫見学等を含んだ「ミステリーツアー」(随時実施)等を行った。
- ・ 学校や自治体の要望を受け、小学校の見学(4件)、幼稚園・保育園の見学受入(2件)、また子ども司書講座の見学受入(国見町)を行った。
- ・ 新たに、3歳~小学生を対象とした定期的「おはなしかい」として、「放課後おはなしかい」を実施した。

○ 児童図書研究室を活用した研修機会の提供

児童向け図書サービスについては、子どもの読書活動推進等、成人向けのサービスとは異なる専門性が求められる。児童向け図書サービスの実践・研究者へ開かれている児童図書研究室を活用し、図書館職員や教員向けの研修会等を開催し、資質向上の機会の提供に努めた。

- ・ 初任者向け研修児童サービス関連講義(5/27)、児童書担当職員研修会(9/16)の実施。
- ・ 小学校の先生と学校司書を対象とした県立図書館見学会を実施。(8/3・参加9名)

- ・ 市町村等主催・各種講座・講習会への講師（県立図書館職員）派遣  
（読み聞かせ講習会への講師（県立図書館職員）派遣（6/28 三春町）、子ども向け調べもの講座への講師派遣（7/2 須賀川市））

(2) 関連指標実績

指標⑥「児童資料の貸出冊数（個人貸出冊数）」は、休館の影響により令和3年度からは減少しているものの、令和4年度で目標値を達成した。ミニ展示について2ヶ月毎に展示替えを行うなど、工夫を凝らしたことなども貸出を伸ばした要因のひとつとしてあげられる。

指標⑦「学校図書館サポートセットの貸出件数」は、令和4年度より本格実施をした事業であるが、目標値に向けて着実に数字を伸ばしている。

指標⑥ 児童資料の貸出冊数(個人貸出冊数)

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
54,580冊	74,081冊	<u>66,428冊</u>	⇒ 65,000冊

指標⑦ 学校図書館サポートセットの貸出件数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
8件 ※2	5件	<u>18件</u>	⇒ 24件

※2 「学校図書館活動支援セット貸出」(「学校図書館サポートセット」前身事業)の利用団体数

(3) 課題

- 学校図書館サポートセットでは、貸出を受けた学校が、セット資料を近隣図書館へ持ち込み、返却する形となる。しかし、図書館未設置町村の学校では、最寄り図書館までの距離がかなり離れている場合もあり、返却に時間を要することが利用者(学校)の負担となっている事例もある。
- 「放課後おはなし会」については令和4年度より定期開催としたところであるが、参加者が少なく、集客に苦慮している。
- 市町村からの講習会への講師派遣依頼に適切に応えるため、児童サービスの専門性を踏まえた職員のスキルアップに取り組む必要がある。

(4) 今後の取組み

- 学校図書館サポートセットについては、利用方法やその活用メリット等について、県内市町村の小中学校への周知メールの送付や、協力車やあづま号巡回の際にもチラシを配布するなど、引き続き広報を強化していく。  
また、セット資料の返却については、より利用しやすくなるよう適切な方法を検討していく。
- 「放課後おはなしかい」については、より参加しやすい開催の曜日や時間等を見極めな

がら、引き続き事業を実施していく。

- 「おはなしかい」など実技の場をできるだけ多く設定し、職員のスキルアップにつなげていく。

### 3 市町村(図書館・公民館等)を支える図書館

県民がどこにいても図書に親しみ、また、生活、学習、事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

#### (1) 令和4年度の主な取組み

- 市町村図書館のニーズに応えた情報の収集・提供

市町村の図書館活動を支援するための事業を行った。

- ・ 市町村図書館からリクエストのあった資料を購入した。(28冊 市町村図書館では利用の少ない専門書など)
- ・ 市町村図書館が必要とする地域資料の書誌情報、データ形式、システムについてのニーズ調査を行った。
- ・ 移動図書館「あづま号」では、図書館未設置市町村の公民館図書室から希望のあった資料について、その収集に努め、貸出を行った。(22 町村・22,234 冊)
- ・ 専門的雑誌の継続的提供と保存のために、収書方針に基づいて継続的に収集と提供を実施した。また、今後、利用が見込まれる雑誌について、可能なものは発行元に寄贈を依頼し、収集対象とした。

- 県内図書館・公民館のネットワーク強化

- ・ 協力車の巡回により資料搬送を行うとともに、巡回時に各図書担当者からの相談対応や意見交換を行い、直接対話によるネットワークの強化を図った。  
(協力車巡回数 令和3年度 373回→令和4年度 376回)

- 被災自治体等への図書館活動支援

東日本大震災で被災した自治体が読書活動を行うために、協力貸出・移動図書館等で資料を届けるとともに、読書活動や図書館再開に向けた運営相談やサポートを行った。

- ・ 令和4年6月に再開館した浪江町図書館や、まだ再開館時期が決定していない大熊町の図書館運営相談を行った。
- ・ 避難指示区域、帰町・帰村した自治体(7町村)を対象として、あづま号による貸出支援及び職員による運営相談等を行った。

(葛尾村 葛尾小学校・葛尾公民館、延べ2回巡回 511冊)

浪江町 にじいろこども園、延べ2回巡回 437冊

檜葉町 あおぞらこども園・コミュニティーセンター、延べ4回巡回 581冊

飯館村 希望の里学園・こども園・サポートセンター、延べ6回巡回 573冊  
 川内村 川内小中学園・川内公民館・コミュニティーセンター、延べ6回巡回 805冊  
 富岡町 デイサービスセンター・富岡支援学校、延べ4回巡回 142冊  
 広野町 広野町図書室、延べ2回巡回 738冊

避難指示区域 あづま号貸出 合計 3,787冊)

○ インターネットを活用した会議・研修会の充実

図書館主催の会議・研修会等について、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策として、実施可能なものについては、令和3年度に引き続き、オンラインにより行った。

- ・ オンラインによる会議1回(実務担当者会議)、研修会3回(初任者研修会 5/27・参加者 51名、児童書担当職員研修会 9/16・参加者 84名。図書館研究集会 11/25・参加者 29名)を開催した。

(2) 関連指標実績

指標⑧「協力貸出冊数」については、他の指標と同様、休館の影響もあり減少となった。

一方、指標⑨「県立図書館を介した県内相互貸借冊数」については、比較的順調に数字を伸ばし、令和4年度で目標値を達成した。令和2年度に開館した国見町図書館や、令和4年度に再開館した浪江町図書館など、新しく活動を始めたところで積極的に県立図書館を介した相互貸借を利用している傾向が見られ、そのことが相互貸借全体の増につながったものと考えられる。

指標⑧ 協力貸出冊数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
4,042冊	4,222冊	<u>3,406冊</u>	⇒ 5,500冊

指標⑨ 県立図書館を介した県内相互貸借冊数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
2,698冊	2,929冊	<u>3,078冊</u>	⇒ 3,000冊

(3) 課題

- 図書館未設置町村において、移動図書館あづま号の巡回申込がなく、各研修会の参加申込もないところもあり、図書館業務について、町村担当者への意識啓発や、町村ごとの課題に応じた支援が必要である。
- 地区ごとに情報交換・研修などを行うため、以前から県内各地区ごとに開催されていた「地区別連絡会」が、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、一部地域を除き近年開催されていない。

- 東日本大震災や令和3年2月及び令和4年3月に発生した福島県沖地震、令和元年の台風19号による水害なども踏まえて、県内における図書館・公民館図書室間における災害時の被災状況や復旧支援等に関する情報について、適時・適切な支援につなげるため、速やかに共有する必要がある。

#### (4) 今後の取組み

- 図書館未設置町村については、引き続きあづま号での積極的な資料貸出支援を行うとともに、図書担当者の相談には、協力車運行時やあづま号巡回時にも職員が直接対応するなどして、きめ細かい支援体制を築いていく。  
また、あづま号については、車両更新が必要な時期に来ているため、市町村のニーズを把握し、今後の事業展開を検討した上で、必要に応じて適時・適切な予算要求を行う。
- 地区ごとの情報交換や研修体制を強化するために、福島県公共図書館協会から補助金を支出するとともに、開催に係る地区担当者からの相談に応じるなどして、各「地区別連絡会」の開催を支援し、各地区のネットワーク強化を促す。
- 県内の図書館・公民館図書室が被災した場合の、災害時ネットワークの在り方について研究していく。
- 被災地自治体図書館（図書担当者）とは引き続き連絡を密に取り、図書館運営・活動支援を行う。

## 4 ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、提供することで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふくしま」を知ることができる図書館を目指します。

### (1) 令和4年度の主な取組み

- ふくしまに関する資料・情報収集・保存の強化
  - ・ 行政資料等の地域資料について、資料等の寄贈を依頼する市町村へ、総花的な依頼方法ではなく、具体的に希望する資料名を指定した上で寄贈依頼を実施することで、より効率的に収集を行った。
  - ・ 市町村図書館が必要とする地域資料の書誌情報・データ形式・システムについてのニーズ調査を行った。
- ふくしまに関する貴重資料のデジタル化の推進  
地域資料については、当館のみが所蔵している資料も少なくない。そのため、劣化等により利用が困難または困難となり得ることが予想される福島県関係の貴重資料について、優先的にデジタル化を進め、17点のデジタル化を完了した。

○ 東日本大震災 福島県復興ライブラリーの運営

東日本大震災及び震災からの復興に関する資料について収集・所蔵する「東日本大震災福島県復興ライブラリーについて、県民の利用に供した。

- ・ 復興ライブラリー出張展示セットに2種類のテーマ（「農林水産業と復興」、「新しい産業と復興」）を追加し、貸出を行った（1回28冊・読書活動支援者養成事業・県中地区別研修会）。併せて、出張展示セットのチラシを改訂した。
- ・ 震災関連の受入雑誌について、随時、福島県、東日本大震災関連、原発事故関連の細目を入力した。

(2) 関連指標実績

指標⑩「デジタル化する地域資料の累積点数」については、令和4年度で目標値を達成した。

指標⑩ デジタル化する地域資料の累積点数

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度(目標値)
122点	139点	<u>156点</u>	⇒ 150点

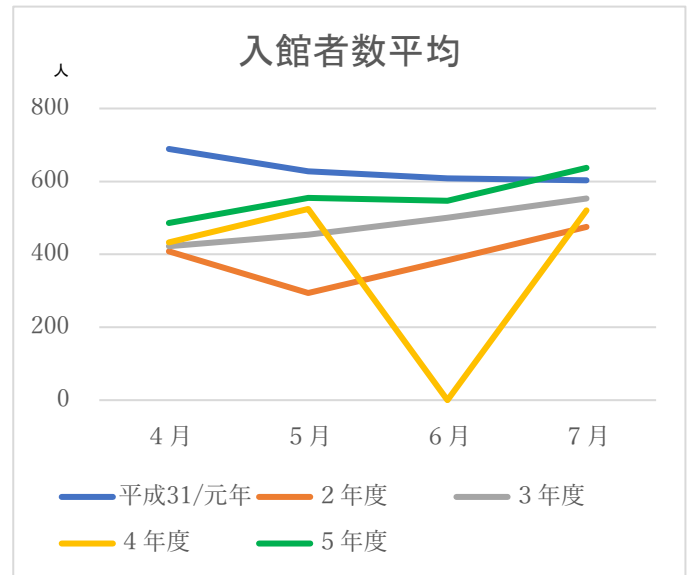
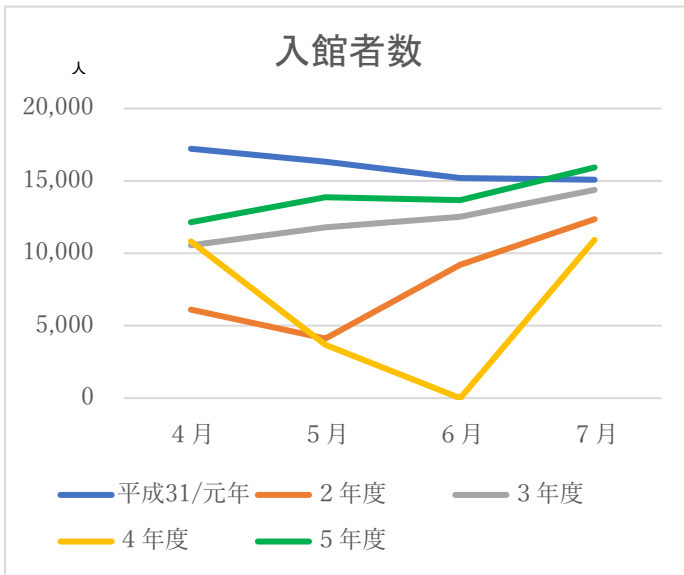
(3) 課題

- 地域資料のデジタル化については、以前策定された計画に沿って進めているところであるが、資料の劣化等により、デジタル化が必要な資料が年々増えてきていることもあり、全体としてはあまり進捗していない状況にある。
- 東日本大震災福島県復興ライブラリーの出張展示セットについて、貸出件数が年々減少している。

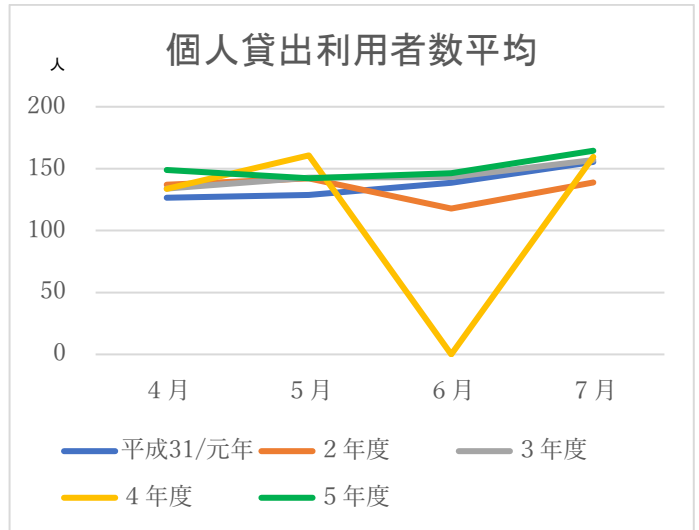
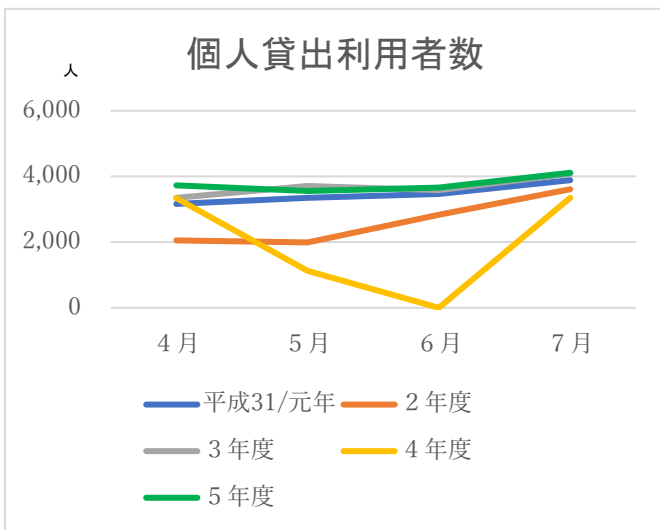
(4) 今後の取組み

- 引き続き地域資料の収集に努めながら、計画的に地域貴重資料のデジタル化を進める。併せて、さらなる貴重資料デジタル化を進めるため、新たな予算確保に努めていく。
- 震災資料については、収集を継続し、貸出用出張展示セットについて協力車、あづま号や研修会等でチラシを配布するなど、各学校や教育事務所へ広報していく。

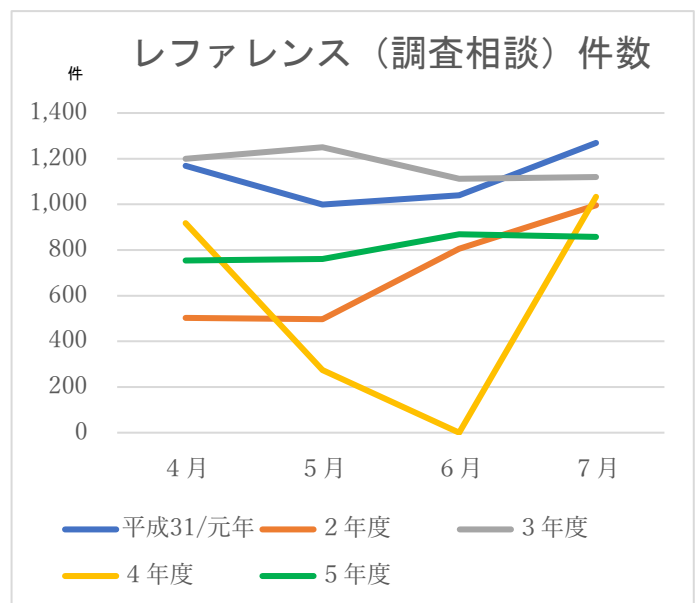
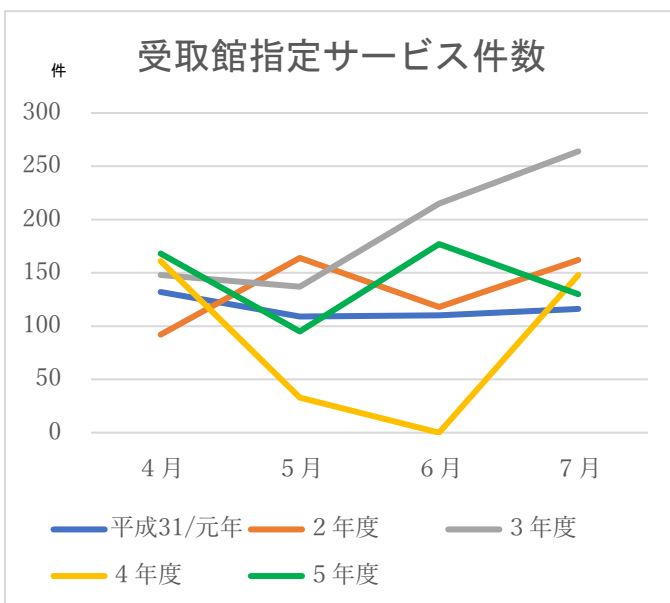




令和5年度は入館者が増加傾向にある。7月になって入館者数がコロナの影響を受ける前の平成31/令和元年を上回った。1日平均も34人上回っている。(R1 603人→R5 637人)



個人貸出利用者も同様に増加傾向にあり、令和5年度は4月以降毎月、個人貸出利用者数が平成31/令和元年を上回っている。



受取館指定サービスは月ごとに増減の幅が大きくなっている。調査相談は横這いである。

受取館指定サービスとレファレンス(調査相談)については更なる広報に力を入れていく予定である。